

街暮らしの新たな魅力を見つけるために 街なかで自分らしく暮らす人～団体編～にお話を伺いました。

メッセージ シエサポ会 代表 大歯 雄司さん

「月いちシエマ」は毎月開催 お気軽にご参加くださ～い

佐賀の街なかで、わざわざ遠方からでもお客さんが集まってくる文化発信拠点の一つが「シアター・シエマ」です。映画はもちろんのこと、音楽イベントやワークショップも定期的に行われています。今回はそんなシエマを愛し、支えていこうと活動している任意団体「シエサポ会」について会長の大歯雄司さんから話を伺いました。

●シエサポ会とはどんな団体ですか?始まった経緯、活動内容について教えてください。

シエサポ会というのは「シエマでずっといろんな映画を観たいからシエマをサポートする会」が正式名称で、簡単にいうと「シエマでいろんな人いろいろな映画をみてもらいたい」と思っている人達の会です。実は前身としてシエデジ会（「シエマでいろんな映画をずっと見たいからシエマのデジタル化に協力する会」という集まりがあり、これはシエマでのデジタル化実現に向けて募金活動を行うための団体でした。元々シエマにあったのはフィルムの映写機であり、上映されている映画自体もフィルム映画のみでした。しかし大手シネコンではデジタル上映が進み、新たに制作される映画もデジタルのみ。そんな時代の中、シエマはまだフィルムでした。ただデジタル化するためには新しい映写機の導入などで1,000万円近くの資金が必要。シエマにとっては大きな問題だったようです。

そんなとき、支配人の重松さんから私に電話があったんです。「オープン時から来ていただいている佐賀大学の先生から大きい額の寄付金をいただきました。その方はシニア割引が使えたと関わらず、いつも正規料金を払われていて、それに加えて今回の寄付。せっかくなので有意義に使いたい。ならばこれをきっかけにデジタル化へ進むことができないのでしょうか」という相談でした。しかし二人だけで動いても難しいので、まずは仲間を集めようということになり、10人ぐらいを発起人として「シエマでいろんな映画をずっと見たいからシエマのデジタル化に協力する会」(「シエデジ会」)を発足させたんです。2014年3月のことでした。

その後、一緒に募金活動で動いてくれる方を増やすために交流会を行い、最終的には約20人の方に活動協力していただけることに。みんなで募金箱を100個くらい作って、いろいろな店に置かせてもらううちに最初の2.3か月で200万円くらい集まり、その後はクラウドファンディングも並行して・・・なんと一年足らずで目標額が集まりました。しかも1,000万の予定が約1,200万円。これはシエマが佐賀の街からなくなってしまうのは困る、必要だと思ってきている人が多い証しなんだと思いました。



▲月いちシエマの様子 ▲代表の大歯さん

●そしてデジタル化の達成から今の活動(シエサポ会)へと繋がるわけですね。

デジタル化により上映できる映画の幅は広がるけれど、映写機を新しくしたからといって、お客さんがいきなりぐんと増えるわけではありません。だからシエデジ会としては有志でこれからもシエマをサポートしていこうということになり、シエデジ会の発展的な形で「シエマでずっといろんな映画を観たいからシエマをサポートする会」、略してシエサポ会を発足させました。この会は「シエマでいろんな人いろいろな映画をみてもらいたい」を大事にしています。特に固いきまりごととかはなく、具体的な活動の一つが「月いちシエマ」というもの。これは月に一回、シエマで上映されている映画をみた後に誰かと感想を話してみよう!という集まりでして、スタートしてもう優に50回を超えています。タイミングが合えば監督や出演者といったゲストを交えるの会もあり、来たことない人には「話だけでも聞いただけでもよかけん、参加してみらね」と勧めていますね。そしてこういう活動をしている中、最近はヴィンテージ会員の数が増加。ということはシエマで映画を観たいという人が少しずつ増えているということ。本当に嬉しいことです!

●現在はシエサポ会だけに留まらず、「みないろ会」の活動へも

みないろ会とは「みんなでいろんな映画を見たからバリアフリー映画をつくる会」の略です。バリアフリー映画とは、目や耳が不自由な人のために音声ガイドや字幕を付けたたり、車椅子の人のために段差がないようにしたりして、誰もが楽しめる環境を整えて上映する映画のことです。この会は、佐賀の街でもこうした映画を日常的に楽しめる環境をつくりたいという想いを持った有志でスタートしました。活動として、昨年は「もうろうをいきる」というバリアフリー映画の上映会や、映画制作のための専用機材購入に向けての募金活動。そして今年は短編映画「ひいくんのあるく町」に、募金を元に会のメンバーで音声ガイドをつけ、3月31日の試写会、そして8月24日の一般上映をするに至りました。こんなふうにはシエサポ会だけの活動に留まらず、映画を通して交流し繋がることのできる場づくりをこれからもシエマでやっていけたらいいなと思っています。是非皆さんも、「月いちシエマ」にもご参加ください～!【聞き手 庄野 雄輔】

【INFORMATION】 シエサポ会・みないろ会
問合せ先(シアター・シエマ) ☎0952-27-5116
○10月の月イチシエマ【BOOKマルシェ佐賀×月いちシエマ コラボ企画】
【ニューヨーク公共図書館エクス・リプリス】を観て図書館について語り合おう
日時/10/6(日) 18:00～19:00 会場/シアター・シエマ

街なか かわらばん 〇〇 INFO ごあんない

ご意見・ご感想、お問い合わせはコチラへ

街なか かわらばん 〇〇 編集室

〒840-0826 佐賀市白山二丁目7-1 エスプラッツ2F
【特定非営利活動法人まちづくり機構コミュニティサガが内】

TEL 0952-22-7340
FAX 0952-22-7346
MAIL kawaraban@humanite-saga.com

編集後記 まもなく本格的な秋が到来。読書の季節ですね。街なか図書館の「本」は店とのコミュニケーションツール。是非これを話のネタとして、お店の方と仲良くなってください!(編集長 庄野 雄輔)

●アートディレクション・デザイン/松本健児(PINEBOOKS) ●イラスト/山本翔(CIEMA)
●ライター/茶園彩、庄野雄輔、吉末大紀、桑原康子、谷口幸恵

地域とともにくすり届109年
ミズ・溝上薬局
健康長寿日本一 佐賀県を目指して
健康長寿実践塾
第一期 塾生定員残りわずか!
入塾の申し込みはミズ・溝上薬局の店舗まで
【電話でのお問合せ】 ☎0120-22-7911
受付時間 8:30～17:30(土・日・夜除く)

本で街を知れるのか?

本をきっかけに魅力的な出会いをゲットする。そこで今回は「さが街なか図書館」という取り組みの体験レポートを、BOOKレビューも交えて紹介します。これは街なかに多くのミニ図書館を作る企画で、参加各店の本棚のテーマや蔵書をお店の方が設定されています。「あのお店に行けば興味のある本や情報が得られる!」、「あのお店に会いにまたお店まで!」など、本の内容をネタにお店の方と話し仲良くなると次も行きやすいですよ!本をきっかけに少しでも街と接点を持つ人が増えたらなあって思います。

街なかのおすすめ賃貸情報更新中!
www.kawaraban-web.com



街とBookレビュー

- 01 ●本棚の場所:カフェ ブラッサンス
●本棚のテーマ:フランス



『エリック・サティ詩集』

(著者:エリック・サティ/翻訳:藤富 保男/出版社:思潮社)

エリック・サティと言えば、CM 等で聞き覚えのある「ジム・ベディ」を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。あの甘美でゆったりとした音楽から、彼のことを柔和な人と決めつけていた私は、この詩集を読んで彼の歪んだサーカスティック?な性格を発見。でも考えてみれば、名曲「グノシェヌ」のあの奇妙でソクソクする音楽を聴けば、特筆することでもないのかも。ちなみにこの本は「詩集」と書かれていますが、エリック・サティの楽譜に書かれた文章を訳者である藤富保男氏の主観によって配置したものです。楽譜も添えられていて、詩と音楽の親和性についてニコニコしてしまいます。「サティも意外と人間としての振れ幅があるのかな」と思いながら、彼が生きた時代に思いを馳せる・・・。その時代を生きていないのに共感できる部分があるように感じます。芸術の素晴らしいこと。その1つは、人や過去と繋がれること、そしてそれによって自分を再発見することなのかもしれません。



▲店奥には大きな本棚があります

街とBookレビュー

- 02 ●本棚の場所:キザックBANKO
●本棚のテーマ:音楽と食
(ビートルズが中心)

『日本人はカレーライスがなぜ好きなのか?』

(著者:井上 宏生/出版社:平凡社)

インドで生まれ、西洋の風に乗って日本にやってきた食の王様「カレー」。今では日本人の食生活の中に深く浸透し、「カレーは飲み物」という言葉もあるほどです。しかしいわゆる「カレーライス」ではなく、「カレー」、「ライスカレー」といった別の呼び方もあります。果たしてそれぞれの違いとは何でしょう?本書はインド発祥であるカレーがなぜインドではなくイギリスから伝わったのか、そして文明開化を皮切りに日本人がカレーをどう受け止め発展させていったのかの話からスタートします。その後、現代のカレールーやレトルトカレーにも繋がる「国産カレー粉作り」に対する商人達の情熱や苦勞、企業CM等による販売競争、そして戦前戦後を通じて変化する庶民の生活とカレーの関係性がリアルに紐解かれていくこととなります。読むとまるでNHK朝ドラ「まんぶく」カレー版の世界に入りこんだような気分にもなるかもしれません。これで今日のご飯はカレーで間違いない!



▲ビートルズ等音楽関連の本が多く並んでいます

街と体験記

記者 園田コロハ野村千太郎
茶園 彩



▲ドア越しに眺める店内。素敵! ▲「そば粉のガレット」が有名です

芸術、音楽、文化の香りが漂う 集いの場

「暗がりの階段を抜けると、カフェ ブラッサンスであった」。なーんて(笑)。川端康成の『雪国』の文章をもじってしまうぐらい、このお店は階段との明暗対比によって私を別世界に運んでくれます。ここは、そもそもオーナー園田さんが大学時代にフランス文学を専攻していたことやカフェへの興味をきっかけとして、7年前にオープンしました。ドアを開いてすぐ左隣に本があり、店奥の棚にもそれ以上の本がずらり。フランス関連だけでなく、芸術の本も多く取り揃えられています。「ここが様々な分野の人々が集まって何かを生み出す場になれば」と語る園田さん。これからの秋の季節にコーヒー片手に本を読んだり、誰かと語らう場としておすすめです!

【INFORMATION】
カフェ ブラッサンス ☎0952-97-9378 ●佐賀市呉服元町2-24 ●営業時間/11:30-18:00 ●定休日/水・日曜、祝日 ●駐車場/なし
※読書会(月1回、第3or4火曜)、書道の話、話し方講座(2クラス)(第2・4火曜と木曜)等も開催

街と体験記

記者 街なかの愛の伝道師
庄野 雄輔



▲マスターの「山内さん(山ちゃん)」 ▲9/27からの第五回佐賀まちゼミにも参加

常連さんから「山ちゃん」の愛称で親しまれているマスター

キザックBANKOは今年なんと創業41年目を迎えた老舗のバーです。店名の語源は「喫茶店」と「スナック」の造語だとか。店内はレング造りで、マスター山内さんが大好きなビートルズやラブビー、食関連の本が所狭しと並び、壁には長年収集してきたカセットがぎっしり。そんなお店で私に気がなって借りた本が「日本人はカレーライスがなぜ好きなのか」(私がカレーは飲み物派!)です。著者の井上宏生氏は佐賀出身で、山内さんとも旧知の仲。自身がカレー好きということもあり、この本を店に置いているのだそう。そんな「山ちゃん」、恵比須巡りツアーガイド等ずいぶん昔から街づくりにも熱心に取り組んでおられます。街には欠かせない存在なんです!

【INFORMATION】
キザックBANKO ☎090-7296-6021 ●佐賀市中央本町4-20ミツビル1F ●営業時間/18:00～翌2:00 ●定休日/なし ●駐車場/なし